

令和6年度 0歳児 年間指導計画

保育目標 ・一人一人の生活リズムを安定させ、生理的欲求を満たして生命の保持と情緒の安定を図る。 ・愛情豊かな保育者の受容により、信頼関係の基礎を培う。

	1期（4～5月）	2期（6～9月）	3期（10～12月）	4期（1～3月）
ねらい	一人ひとりの発達・発育状況を踏まえ、基本的な生活習慣を養う。	・梅雨期、夏期を気持ちよく過ごす。 ・沐浴や水遊びを楽しむ。	・個人差に留意しながら、一人ひとりの発達に合った全身運動が十分にできるようにする。 ・戸外遊びを楽しむ	・冬の自然に親しみ、丈夫な体をつくる。 ・様々な生活場面で、自分でしようとする気持ちの芽生えを育てる。

		首すわり～6か月頃	6か月～9か月頃	9か月～1歳頃	1歳～1歳3か月頃	1歳3か月～2歳頃
内容	養護	・飲む、寝る、遊ぶの安定した生活リズムで機嫌よく過ごせるようにする。 ・丁寧な関わりの中で、情緒の安定を図る。	・保育者との関わりを十分に持ち、欲求を受け止め、親しみをもって安定して過ごせるようにする。 ・離乳食を始める。色々な食品の味や形状、スプーンに慣れるため、無理なく進める。	・保育者との十分な関わりの中で欲求を受け止め、安定して過ごせるようにする。また、その中で豊かな感情を育む。 ・意欲的に食事ができるようにする。	・保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け入れてもらう心地良さを味わえるようにする。 ・生理的欲求を満たし、満足する事を実感できるようにする。	・安全に歩行ができる環境を整える。・甘えや欲求を受け止め、安心感や信頼感を持てるようにする。 ・子どもの感情が混乱している時は安心感を持たせ、情緒の安定を図る。
	教育	・汚れたオムツをこまめに取り替えてもらい、気持ち良さを感じる ・体調の良い日は沐浴をしてもらい、心地良さを味わう。 ・あやされたり声をかけられたりすると喜び、自分でも声を出す。 ・発達、生活リズムに合わせた外気欲をし、自然に触れる。 ・喃語で話したり、声や泣き声で要求を示したりする。 ・保育者の歌を楽しんで聞く。 ・赤ちゃん体操など、動きを誘う動きかけをしてもらい、活発に手足を動かす。 ・音を聞く、物を見る、握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分に行う。	・嫌がらずに手や足、口まわりを拭いてもらい、清潔になった気持ち良さを感じる。 ・保育者の語りかけを喜び、自分でも声を出す事を楽しむ。 ・興味のある玩具をしゃぶったり、振ったりして、少しの間ひとり遊びをする。 ・身近な人を声を出して呼び、応答に対して喃語で話す。 ・簡単な歌や手遊び、わらべうた遊びなどのふれあい遊びを喜ぶ。 ・体を支えられながら、足でピョンピョン跳ねて遊ぶ。 ・寝返り、お座り、腹ばいなど、体を動かして遊ぶ。 ・玩具へ手を伸ばしたり、握ったり、持ち替えたりする。	・沐浴などにより、清潔になった気持ち良さが分かるようになる。 ・身近な人や物に対して興味や関心を持ち、探索活動を楽しむ。 ・戸外遊びや散歩を喜び、植物や虫、動物などに興味を示す。 ・大人の真似をして、色々な音声や音節を繰り返す。 ・安全な場所でハイハイやつかまり立ち、伝い歩きをする。 ・紙を破ったり、物を落としたり、箱や引き出しを開けたりして、両手を使って探索を楽しむ。 ・大人の歌に合わせて、体を揺らしたりリズムをとったりする。	・衣服の着脱の際、自分から手足を動かす。 ・自分の思いを伝えようと思表示をし、受け入れられる事で安心感を持つ。 ・友達の行動に関心を示し、関わりを持つようにする。 ・絵本や玩具などの身近な物を使って、ひとり遊びを十分に楽しむ。 ・保育者に絵本を読んでもらったり、手遊び、まねっこ遊びをしたりしながら、簡単な単語を発するようになる。 ・鈴やタンバリンなどを使った楽器遊びを楽しむ。 ・絵本の絵や身近な物に興味を示し、指さしをする。 ・動く玩具を押ししたり引いたりして遊ぶ。 ・活動しやすい安全な場所で、全身運動や探索遊びを盛んに行い喜ぶ。	・便座に興味を持ち、座ってみる。 ・保育者に声をかけられる事で、排泄の感覚を認識する。 ・介助されながら自分で顔を拭いたり、手を洗ったりして、清潔になる気持ち良さがわかる。 ・保育者の話しかけに動作で応じ、ふれあいややりとりを楽しむ。 ・戸外で、砂、石、水、泥、草花などの自然物に触れて遊ぶ。 ・「おてて」など、簡単な言葉と動作が一致するようになる。 ・全身を使って、簡単なリズム遊びを楽しむ。 ・自分の持ち物がわかる。
	食育	・一人ひとりの状態に応じて離乳の準備が始まり、スープ、スプーンに慣れる。	・離乳中期食（舌でつぶせる硬さ）に進み、モグモグして飲み込む事に慣れる。 ・保育者に抱っこされて食べる。	・離乳後期食（歯茎でつぶせる硬さ）に慣れ、食品によっては手づかみ食べをする。 ・介助スプーンに手を添えて、保育者と一緒に持って食べる。 ・コップからお茶などを飲むようにする。	・食べ物の量や種類が増えて色々な形状に慣れ、完了食に移行していく。 ・空腹を感じ、満腹になる満足感を実感する。	・椅子に座って、コップやスプーンを使い自分で食べようとする。 ・お腹がいっぱいになった時や、嫌な時は動作や言葉で表す。
	環境構成	・清潔で安全な環境を整える。 ・クッションなどを用意し、腹ばいやひとり座りを援助する。 ・感覚器官を発達させる清潔な玩具を準備する。	・興味や発達に合わせ、十分に運動できる環境を整える。 ・安全で活動しやすい環境を整え、寝返りや腹ばいを促していく。	・移動活動が十分に楽しめるように、斜面や広い空間を用意する。 ・色々なものを見たり触れたりする機会を多く持ち、興味や関心を広げ、豊かな感性を育む。	・一人歩きが盛んになるので、転倒などに十分注意しながら、探索意欲が満たされるようにする。	・大まかな運動とともに手先・指先を使う玩具に触れる機会を多く持つ。 ・歩行の確立により行動範囲が広がるため、安全な広いスペースを確保する。
	保育者の援助	・眠っている時は目を離さず、子どもの姿勢や寝具の状態に注意する。 ・愛情に満ちた接し方を通じて情緒の安定を図り、信頼関係を深めていく。 ・一人ひとりの健康状態、発達状態を把握しておく。	・子ども一人ひとりの感情の表し方を理解し、共感して受け入れ、安定できるように接していく。 ・一人ひとりの甘えや不安、欲求を受け入れ、徐々に言葉と動作を結び付けて話しかけていく。 ・衛生的な生活を習慣付け、生理的欲求を十分に満たす。	・一人ひとりの生活リズムを把握し、落ち着いた雰囲気の中で眠れるようにしていく。 ・子どもの発見の喜びに共感し、興味を持ったものや指さしを大切に受け止め、丁寧に応えていく。	・排尿感覚を把握し、無理なくトイレに誘う。 ・甘えたい気持ちや欲求をしっかりと受け止め、安心して自分の気持ちを出せるようにしていく。	・自分でしようとする行動が増えてくるので、自分でできた喜びを十分に感じられるようにする。 ・言語の獲得が目覚ましく、物と名前を対応させながら覚えていくので、はっきりとした言葉で話すようにする。・子どもが自分でしようとする気持ちを大切に、あまり手を出さず、その行為が満足できるように見守る。